

# 犬の歯周病とC反応性タンパク(CRP)の関連性



Association with periodontal disease of dog and CRP

小宮山 祥太(こみやま しょうた)<sup>(1)</sup>

白畑 壮(しらはた そう)<sup>(5)</sup> 三浦 貴裕(みうら たかひろ)<sup>(2)</sup> 草場 宏之(くさば ひろゆき)<sup>(3)</sup>

佐藤 陽子(さとう ようこ)<sup>(4)</sup> 小田嶋 希佳(おだしま のぞか)<sup>(5)</sup> 山寺 真実(やまさき まみ)<sup>(4)</sup> 吉村 忍(よしむらしのぶ)<sup>(5)</sup>

高田 麻由(たかた まゆ)<sup>(2)</sup> 永田 あかね(ながた あかね)<sup>(4)</sup> 和田 藍果(わだ あいか)<sup>(1)</sup> 鈴木 義之(すずき よしゆき)<sup>(5)</sup>

(1)相模原プリモ動物病院 (2)相模大野プリモ動物病院 (3)横浜戸塚プリモ動物病院 (4)厚木プリモ動物病院23時 (5)プリモ動物病院相模原中央

## 【はじめに】

CRP(C反応性蛋白)は、犬の炎症マーカーとして臨床の現場で頻りに測定されている。歯周病とCRPの関連についてはこれまでもいくつかのデータが報告されているが、歯周病重症度ステージとの比較検討や歯科処置による改善の評価をしている報告は少ない。また、歯周炎の進行度によってGlobの数値が上昇するという報告がある。<sup>1)</sup>そのため今回、歯周病患者のCRPとGlobについて麻酔下歯科処置による影響を検討した。

## 【CRPって?】

CRPとは急性相蛋白と言われ、犬の炎症マーカーである。身体の中で炎症が起きるとおよそ6時間で上昇し始め、24~48時間でピークに達し、半減期は6~8時間と言われている。

## 【材料および方法】

プリモ動物病院相模原中央にて、歯周病の改善のため麻酔下歯科処置をすることになった症例48例について評価した。歯周病重症度ステージ分類、抜歯適応歯の本数、術前のCRPやGlob値、術後の状態を比較検討した。

### 歯周病の重症度分類

| 重症度 | 特徴                              |
|-----|---------------------------------|
| 軽度  | 歯肉の腫れ、退行(25%以下)、口臭がある           |
| 中度  | 歯肉の退行(50%ほど)<br>歯肉の自然出血や歯の脱落がある |
| 重度  | 50%以上の歯肉の退行<br>歯根部の病変、瘻管形成など    |

軽度



中度



重度



## 【結果】

48例の内わけ: 重度22例、中度9例、軽度17例

◆CRPが上昇していた症例: 15例(重度14例、中度1例)

◆スケーリング、抜歯後にCRPが改善した症例: 3例中3例

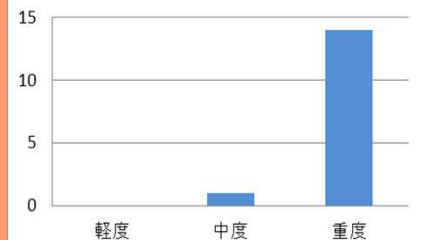
◆グロブリンが上昇(4.4以上)していた症例: 10例(重度8例、中度1例、軽度1例)

◆グロブリン上昇例は、歯周病が軽度でも破折や動揺歯が確認された

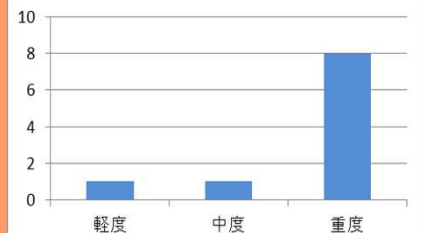
◆CRPが上昇していた症例はいずれも重度歯周病であったが、重度歯周病であってもCRPが上昇していない症例もいた

◆CRPが上昇している症例の15例中14例で抜歯を行っているが、抜歯適応歯が多ければ多いほどCRPが高いという結果はなかった

### CRP上昇症例数の比較



### Glob上昇症例数の比較



## 【考察】

◆歯周病の重症度とCRPの数値には相関があると考えられるが、CRPの上昇していない症例もいたことから、口腔疾患以外にもCRP上昇には必要な要因があるのかもしれない。

例えば、①歯周病が肝臓に影響した際にCRPの産生が促される。<sup>2)</sup>

②歯周病の経過によってCRPの数値に変動がある。など今後の検討が必要。

◆グロブリンの変動は口腔内の状態と一致し、重症度と相関していると考えられる。

◆抜歯適応歯は歯周病菌も増殖し、全身への影響も大きいと思われる。

今回抜歯があってもCRPの上昇が無い症例がいるということは、切歯、犬歯、臼歯のどこかでも影響に差が出る可能性がある。

<参考文献> 1)山下智; イヌの実験的歯周炎における歯肉免疫グロブリンの動態. 日歯周誌第24巻2号; 249-265, 2010  
2)曾我賢彦, 西村英紀; 歯周病と糖尿病の相互作用のメカニズム. 月刊糖尿病; Vol2, No13; 33-42, 2010